

栄養茨城

FLASH No.15

発行日／平成29年3月21日

発行所／公益社団法人 茨城県栄養士会

〒310-0034 水戸市緑町3-5-35
茨城県保健衛生会館内

TEL 029-228-1089 FAX 029-228-4271

<http://www.ibarakiken-eiyoushikai.or.jp/>

CONTENTS

会長あいさつ	P1	受賞おめでとう	P 9
法人設立30周年記念講演会	P2	栄養ケア活動支援整備事業	P10
法人設立30周年記念祝賀会	P4	平成28年度主な研修会報告	P13
座談会	P7	会員増対策・役員改選	P14

公益社団法人茨城県栄養士会法人設立30周年記念特集号



会長あいさつ

公益社団法人茨城県栄養士会会長
政 安 静 子

本年度は、茨城県栄養士会法人設立30周年記念事業で講演会として“いばらき型地域包括ケアとは”をテーマに実施しました。基調講演とシンポジウムの座長をして

くださった三浦公嗣先生は、介護保険創設時の制度づくりと栄養マネジメントを制度化され、さらには地域包括ケアの体制づくりをされた方です。2025年問題に対応するためには、栄養士・管理栄養士も地域包括ケアにおいて専門職種として県民に役立つ存在にならなければなりません。“いばらき型地域包括ケアシステム”の中で活動し、県民や他職種に求められる栄養士・管理栄養士として役割を果たすため、記念講演で得た新たな知識・技術を早急に身につけ対応を図りたいと考えています。

なお、現在取組んでいる栄養ケア・ステーションのモデル事業は、これからの地域包括ケアに役立つ活動です。モデル事業から得た知識・技術を集結したマニュアル等を作成し、事業を発展的に展開したいと考えています。

また、県長寿福祉課からの受託事業で実施しています地域ケア会議、サービス調整会議、通所・訪問指導、住民主体の通いの場での講義などに「いばら

き栄養支援管理栄養士」の皆さんに活動していただいております。これらに対する需要はますます増大すると思われます。平成29年度も県や市町村からの受託事業を受け、医師会を始め各種団体との連携を深め、栄養ケア・ステーションを中心とした栄養・食生活支援を行いたいと考えています。これらを成功させるためには、多くの会員のお力が必要です。

「パンフレット指導はやめよう!」「食べ方を知って支援をしよう!」を合言葉に、「県民に顔の見える、慕われる栄養士・管理栄養士」になりませんか。5月よりこれらの事業を担うためのスキルアップ研修を行います。1人でも多くの会員のご参加をお待ち申し上げております。



茨城県栄養士会事務所（茨城県保健衛生会館1階）

公益社団法人茨城県栄養士会法人設立30周年記念講演会

テーマ 「いばらき型地域包括ケア実現にむけて」

平成29年1月14日(土) ホテルレイクビュー水戸

記念講演会は来賓18名、保健師等他職種18名、賛助会員11名、栄養士会員125名、合計172名の参加があり盛大に開催されました。開催挨拶では政安静子茨城県栄養士会長は、記念講演会（基調講演・シンポジウム）を通して、栄養士をはじめ医療職種が

「今後、県民のために何ができるのか？」を、茨城県医師会をはじめとする各団体の皆様の考えをお聞きし、未来に向けて、参加の皆様と一緒に考える機会を作りたいと思い、この記念講演会を設けたという開催の主旨を伝えられました。

基調講演

「地域包括ケアシステムとは」

慶應義塾大学病院臨床研究推進センター教授
(前厚生労働省老健局長)

三浦 公嗣 氏

基調講演は、前厚生労働省老健局長で慶應義塾大学病院臨床研究推進センター教授の三浦公嗣氏を講師に迎え、「地域包括ケアシステム」についてご講演頂きました。三浦氏が保健所医師として仕事を始められた約30年前には、訪問看護や在宅医療という言葉はなく、在宅で生活している重症の方においては主治医の往診や福祉のサービスが地域生活を支える唯一の方法であり、その保健医療福祉の連携の発



展形が「地域包括ケアシステム」の考え方になるのではないかと考えられました。最近では、

国が2025年の高齢化のピークに向けて地域包括ケアシステムを構築するとしているが、高齢化の波はその後何波も続くであろうし、また地域包括ケアの対象となるのは、高齢者だけでなく、子供や障害者等地域住民すべてであること、地域包括ケアシステムは永久に完成するものではなく、永久に成長し続ける仕組みであると話されました。そして、地域包括ケアシステムの「地域」とは、自治体の区域によって形成されるものでもなく、地域住民である自分たちに取って「一番大切なものは何か？一番解決しなければならないものは何か？」を考え、その地域の中で問題解決に向けて仲間を増やし、問題の何から手を付けていく

かを考え、実際に実行していくことが地域包括ケアシステムであると言われました。しかし、「地域住民の参画と協働による誰もが支え合う共生社会の実現」には、多様化複雑化する要望にどう答えていくか、働く世代の人口減少が進む現状の中でどのようにサービス従事者の人材確保をするか等、多くの問題があることを説明されました。誰もが支え合う地域の構築に向けた新しいサービスの実現のためには、私たち保健医療福祉に関わるものが、自分たちのキャリアパスの中でどう専門性を高めていくか考える事が大切であること、そして利用者様が笑顔になれて良かったと思ってもらえるように、自分たちの業務を見直し、どう仕事をしていくかが大事であると、専門職としての今後の姿勢についてご助言くださいました。(文責 大賀 智子)



シンポジウム



●座長
慶應義塾大学病院臨床研究推進センター教授
(前厚生労働省老健局長)

三浦 公嗣氏



●シンポジスト

茨城県保健福祉部長	松岡 輝昌氏
前茨城県医師会会長	小松 満 氏
茨城県看護協会会長	相川三保子氏
茨城県栄養士会会長	政安 静子氏

基調講演につづき、4名のシンポジストからそれぞれの立場における活動状況の報告がありました。

茨城県保健福祉部長の松岡氏は、昭和59年に国立霞ヶ浦病院で始まった地域医療カンファレンスを発端に、対象を全県に展開するべく平成6年、各市町村に地域包括ケアシステムを発足したこれまでの県の取り組みを紹介されました。国の施策である「地域包括ケアシステム」が「高齢者」を対象としているのに対し、茨城県の「地域ケアシステム」は「地域で生活課題を抱えた全ての援護者とその家族（ファミリーケア）」を対象にしていること、サービス調整の中心を市町村・社協としていることなど、国と県のケアシステムの相違点をわかりやすく示してくださいました。また平成26年には「茨城型地域包括ケアシステム」と名称を新たにし、介護保険制度のケアマネジメントを取り込むかたちで再興させようとしていることも報告されました。

前茨城県医師会長の小松氏からは「顔の見える職種連携」をキーフレーズにシステムを構築中であることの報告がありました。茨城県は在宅療養支援診療所数が国の平均以下であり、システム構築には在宅医療実施機関の増加と後方病床の確保、複数医師の連携や訪問看護ステーションとの連携が課題であると述べられました。また地域包括ケアにおける管理栄養士の役割として、「在宅で適切な栄養管理が行えること」、在宅歯科医、歯科衛生士と連携によ

る「口腔ケアへの積極的なかわり」を挙げてくださいました。

茨城県看護協会長の相川氏は、病院から暮らしの場に戻るための退院支援・調整のスキル、退院支援を充実させるため訪問看護の24時間365日体制の提供を行う人材育成に力を注いでいること、また在宅医療・介護連携拠点事業として地域の多職種・行政と連携して実施された「在宅医療の安心づくりのためのお話し会」の紹介、さらに「訪問看護へ同行し、栄養の視点で対象者の改善を」と栄養士へ向けて期待を寄せてくださいました。

茨城県栄養士会長の政安氏は、地域住民の食生活・栄養支援の実践にむけて栄養ケアステーション事業の活動を報告されました。地域住民が望む支援を進め、健康度を向上させ、いつまでも地域で暮らすことができるよう栄養サポート体制を構築する、と強い志を示されました。

最後に座長の三浦氏は、「今後、地域包括ケアシステムが市町村で作られたときに、どんな指標で評価していくのか、を考える必要がある」とまとめられました。そのなかで「対象者が抱える栄養問題は地域だけではなく個人のQOLを反映している可能性があり、栄養に関する指標で評価することも一案ではないか」と食と栄養に関するご提案をいただきました。
(文責 鈴木 薫子)

祝賀会

平成29年1月14日(土)
ホテルレイクビュー水戸 飛天の間

関係団体のご来賓や賛助会員のご臨席のもと、山崎富江実行委員長の挨拶により、茨城県栄養士会法人設立30周年記念祝賀会がスタートしました。

これまでの栄養士会、これからの栄養士会、また記念講演会でのテーマである地域包括ケア事業についての話題等で、参加者同士が活発に交流する姿が見られました。

挨拶 政安静子茨城県栄養士会長

茨城県栄養士会は30周年を迎えることができました。この30年はやはり諸先輩の発展へのご尽力によるものと思います。また、今の若い会員が栄養ケア推進事業を盛り上げようと一生懸命参加してくださっています。熱心な会員の力があってこそ、この栄養士会が発展していくことができます。そして応援して下さる県・市町村・各種関係団体の皆様がいて下さるからこそ、また、いつもお世話になっております賛助会員の皆様の後押しがあるからこそ、発展してこられたと感謝しております。この30周年を契機に、県民の健康のために本当に何ができるかを考えながら、そしてご参会の皆様が栄養士に期待されることをお伝え頂きながらご歓談頂きたいと思っております。

祝辞 橋本昌茨城県知事

皆さん、あけましておめでとうございます。栄養士会法人設立30周年、おめでとうございます。会員の皆様方には日頃から県民の健康を守るために大変ご尽力を賜っていることにつきまして、お礼申し上げます。



ここ15年の間に随分制度も変わって参りました。健康増進法や栄養教諭の制度、食育基本法もできましたけれども、それをどう運用していくかという点で栄養士会の皆さんが当たってこられたことは大変大きなものがあります。茨城の健康づくりにおいて、課題が山積している状態ではありますが、食生活は大切だということを県民、特に子供や若い人、高齢者へもPRして頂ければ有難いと思います。これからもしっかりと結束を強めて頂いて、県民の健康を守るんだというプライドを持ってぜひ頑張ってください。30周年を迎え、さらなる飛躍に向けて発展されますこと、皆様のご健勝、ご活躍を祈念いたします。

祝辞 小松満前茨城県医師会長

法人設立30周年おめでとうございます。本当にお世話になっております。最近の栄養士会は、NSTや口腔・栄養ケア、2年前の常総市水害時のDMATとの協働など、医師会と一緒に活動することが多くなってきたと思います。茨城県は医療職の人が少なく、守備範囲を広げて連携してやらないといけないと考えております。是非、管理栄養士もさらに質を上げて、より大きく医療に入ってほしいと思います。



乾杯 根本清美茨城県薬剤師会長

30周年おめでとうございます。私共の使う薬というものは100%完治するわけではありません。栄養士会様がやっている、食事をしっかりとって病気になることが一番だと思います。これからの発展を祝しますとともに、ご参会の方々のご健康を祈念致しまして乾杯したいと思います。それでは、乾杯！

(文責 菊池 嘉代子)



祝賀会 ～来賓の皆様から一言～

茨城県歯科医師会森永和男会長



歯科医師会としましては、栄養士を含めた多くの専門家をもとに、予防医療を推進していきたいと思っております。

茨城県薬剤師会根本清美会長



病気の大元を断つことが栄養士に求められています。国が負う医療費もいっぱいであり、病気を減らすことが期待されています。

茨城県理学療法士会森田英隆常任理事



利用者の希望に沿うためには、栄養士に相談できることが大切ですので協力してやっていきたいと思っております。

茨城県ケアマネジャー協会若松幸子副会長



地域包括ケアの強化にあたり、総合事業の中で栄養士とも協力し、一丸となつてうまく機能するようお願い致します。

茨城県作業療法士会寺門貴副会長



患者さんが食事動作を練習する際、栄養指導を取り入れることがあります。食べる楽しみが増えるよう、今後も協力していただきたいと思っております。

茨城県教育委員会小野寺俊教育長



子供達の食育が、国の大変大事な課題ですので、栄養士会の皆様のご活躍を期待しております。

茨城県メディカルセンター仙波操事務局長



栄養士の前向きな姿勢は素晴らしいです。高齢者に多い誤嚥性肺炎は、栄養士の関り方が徹底されれば予防できると思うので期待しております。

茨城県介護福祉士会井手実和理事



口から食べる大切さが年々重視されています。高齢者・障害者はもちろん、健康が長く維持できるよう協力できればと思います。

茨城県臨床検査技師会門馬敏郎会長



法人設立30周年記念、まことにおめでとうございます。今後益々のご発展と皆様のご健康をお祈り申し上げます。

アトラクション



キーボード演奏者の渡辺大輔氏

～懇談の様子と参加者の声～



これからも皆さんと勉強しながら頑張っていきたいです



専門研究会を超えた横の繋がりが
あるのは励みになります。



栄養士会をここまで大きくくださった先輩方に感謝しております。これからも、若い方が栄養士会を引っ張って行っていただきたいです。



料理は、茨城県産の食材が使われていてとてもおいしいです。



色々な職域の方と交流ができて、参加してよかったです。



栄養士会と繋がっていることで「県では」「国では」という裏付けの元、仕事ができるのでありがたいです。



<実行委員>

(会長)政安 静子 (実行委員長)山崎 富江
(委員)岡 純子、山口 雅子、加藤 かな江
住友 かほる、林 道子、須能 恵子
仙土 玲子、大賀 智子、海老澤 加奈

(文責 山本 愛)



出席者（敬称略） 右から

梶 日京クリエイト 荒川 友佳里	県立 境特別支援学校 金子 絵美	水戸 赤十字病院 大槻 将史	日立市 金沢弁天園 市川 庸子	地域活動 管理栄養士 佐藤 晃子	県庁 保健福祉部 海老澤 加奈
------------------------	------------------------	----------------------	-----------------------	------------------------	-----------------------

司会（大賀広報部長）今日は茨城県栄養士会創立30周年記念座談会に各専門研究会を代表して皆さんにお集まりいただき、栄養士会の明るい未来にむけていろいろなお話やご意見をお聞かせください。

政安会長皆さんの未来を語っていただきたいので、あまりかしこまらずに、忌憚のない話をして、思い描いていた管理栄養士像やこんなになれたらいいなということも含めて、楽しくお話していただけたらと思います。どうぞよろしく願いいたします。

栄養士になろうとしたきっかけは？

大槻高2の時に兄が病気入院した際、食事療法について話してくれた男性の管理栄養士さんに衝撃を受けたのが進路を決めるきっかけとなりました。



金子自分が学生の時運動のし過ぎで貧血になり、健康になるためには食の知識が大切だと学生に教えるために学校で食に関する指導がしたいと思いました。

荒川高校生の時、バスケットボールをやっていて、たくさん動くためには食事も大切だし、どうやって筋肉をつけるのかとか考えた時に栄養士という仕事があるのだと知り、それがきっかけとなりました。

海老澤小さい頃から食べることが好きでした。私のためにいつも栄養のことを考えて食事を用意してくれていた祖母の影響から自然に食事と健康を考えるようになって栄養士を目指すようになりました。

佐藤何か手に職をと選んだのが栄養士の学校で、薬

を飲むと副作用がでるのを化学薬品ではなく、食事や食べ物で治せるのだったらいいなと考え、食べ物の仕事をちゃんとやろうと栄養士になりました。

市川大学受験を考えた時に資格が取れる大学に行こうとまず考え、さらにマスコミの影響から食べ物の効能に興味を持ち、管理栄養士学科を選びました。

毎日の業務内容は

金子管理栄養士の資格を持つ学校勤務の栄養教諭の業務は学校給食の管理と食に関する指導があります。小1から高3までそれぞれの学年に合わせた指導内容があり、担任の先生とチームティーチングという形で授業を行っています。



大槻病院給食の食数管理、検収や調乳業務、入院患者さんの栄養管理、個別対応などを行っています。病棟訪問や入院患者さんや外来患者さんへの栄養指導も任されています。

荒川事業所の社員食堂の食事提供をしています。献立作成や現場へ衛生管理の伝達指導や事業者様の依頼で健康管理メニューを提供したりしています。

海老澤勤務場所は県庁にあります。公衆栄養分野で県民の栄養課題について調査したり、県内の保健所と会議を開催したり、食育推進のためにいろいろな方と連携しながら事業を運営しています。

佐藤地域の栄養ケアステーションに登録して、県栄養士会からの依頼で東海村の介護予防教室の栄養指導や食生活改善指導をしたり、在宅の方や介護予防事業等で地域住民の方にも栄養指導をしています。

市川私の勤務する園は給食委託会社ですので、利用者との連絡調整や入居者様のケアプランを作成したり、給食会議を開催したりしています。県栄養士会の栄養ケア事業に参加して対象者に指導をする機会を頂いて視野を広げた活動をしています。

栄養士のやりがいは・・・

市川高齢者施設では入居者の重度化が進むなどさまざまな問題がありまして、そのような中でも他の職種の方やご家族と相談し食事面の支援を



考えてそれが改善に向かった時はうれしく感じます。

佐藤 結婚した当初メタボ体型だった主人が私と一緒に暮らしているうちに食生活も変わり体重も減り、健康診断の結果も良くなってきたのを見た時、「やった」と妻としてだけでなく、栄養士としての食事や栄養管理がうまくいったことを実感できました。

大槻 患者さんに栄養指導をした時、それぞれの状況に合わせた話し方をして、それがうまくいって「話してよかった」とか「食事を変えたら検査結果が良くなった」と言われた時にやりがいを感じます。

金子 食のことを何でも相談できる先生として保護者にも認識されていることです。食育の授業を行った時、子供たちが楽しかったり、わかってくれたり、変わったと感じられたときは楽しいと実感します。

海老澤 課内にはいろいろな職種の方がいます。その中で栄養のことについて他の職種の方に理解・協力してもらい物事が進んだ時にやりがいを感じます。

荒川 食事を提供しているお客さんに、「おいしかった」「今日はこうだったよ」と直接私の顔を見て言ってくれるのがうれしいことです。また、仕込み数が喫食数に近かったときには「やったー」とうれしく思います。食数が日々変わるので、数を決定するのが難しいです。



こんな栄養士になりたい！

大槻 どんなものにでも答えられる、頼りにされる管理栄養士になりたいと思います。地域社会に向けては院内で行っている出前講座や寄り道講座などに参加して、人々の一次予防にも関わりたいと思います。

金子 子供たちのためにも、もっといろいろな知識を食の専門の方から学びたいと思っています。調理員から調理技術を、先生方からは教育論などを勉強して、他職種の仕事内容を学びながら自分の糧にして、広い視野を持った管理栄養士になりたいと思います。

市川 要介護者との関わりが多いので、重症化予防を心がけていますが、施設に入る前の段階で予防する必要がある在宅の方に対しても管理栄養士としての専門性を生かしていけるような機会があればぜひ参加したいと思っています。

海老澤 茨城県は食塩摂取量が多いですが、加工業者に対する働きかけや給食



施設への指導などを通して、知らないうちに減塩につながるような食環境整備をする仕組みづくりをして県民の健康づくりを進めていきたいです。

佐藤 地域包括支援センターでの仕事に関わり、在宅の人々を支援していきたいです。これからも栄養ケアステーションで地域の人々に食事アセスメントを作成し管理栄養士として仕事をしていきたいと思っています。



栄養士会への要望

市川 今、国や県が私たちに何を求めているか栄養士会から情報や声掛けがあれば視野が広がりますし、業務も増えると思うので、よろしく願います。

海老澤 勉強したいと思った時に研修を受けられる体制や、異分野の栄養士同士の情報交換や交流する場を設けていただくとありがたいです。

司会 そういった意味では、スキルアップ研修は職域を超えて集まって勉強できていると思いますので、皆さんにプラスになっているのではないのでしょうか。

佐藤 グループワークで勉強していて、職域が違うので同じ栄養士だけど、見る視点が違い、自分になかった気づきが知ることができる楽しい研修会です。

金子 ロールプレイの研修の中で、役割分担を変えて演習する時、職場でのコミュニケーションの大切さや難しさがわかり、とても勉強になっています。

荒川 県栄養士会が研修会を開催していることをあまり知らなかった人に、もっと広く呼びかけてより多くの方が参加できるようにしてもらいたいです。

大槻 栄養士それぞれがもっと研修会に参加して自己研鑽を積んで、社会に貢献できる栄養士会になれば良いと思います。

会長 今後、若い栄養士の方や栄養ケア事業に参加したいが子育て中の方、栄養士を目指す学生が集まって何でも相談できる会を設けようかと考えています。それから、皆さんも研修会等に意識を高く持って積極的に参加して、これからの事業やいばらき型地域包括ケア事業にご協力よろしく願います。

司会 皆さんが益々ご活躍をされることをご期待申し上げます。これからも一緒により良い茨城県栄養士会を作っていきましょう。今日は長時間にわたりありがとうございました。(文責 小野 富士子)

受賞おめでとう

永年の栄養士活動が認められ、平成二十八年度表彰された方々をお知らせします。(敬称略)

大臣賞・知事賞・保健福祉部長賞

栄養関係功労者
厚生労働大臣表彰受賞者



茨城県立健康プラザ
須能 恵子



地域活動(坂東市)
染谷 まゆみ

〔団体〕
下妻市立下妻小学校



水戸市立石川小学校
磯山 仁子

学校給食
文部科学大臣表彰受賞者

茨城県知事感謝状受賞者
第五回定時総会

- 筑西市健康づくり課
菅谷 寛子
- 株日京クリエイト
木名瀬 奈美路
- 県民健康づくり表彰式
鯉淵学園農業栄養専門学校
若林 陽子

茨城県保健福祉部長
感謝状受賞者

- 第五回定時総会
茨城県立こども病院
加藤 かな江
- 地域活動(牛久市)
浅沼 一美
- 地域活動(筑西市)
飯島 雪枝
- 県民健康づくり表彰式
茨城キリスト教大学
井川 聡子
- 地域活動(高萩市)
坂本 芳美
- 地域活動(下妻市)
中山 登志枝

日本栄養士連盟茨城県支部活動

茨城県栄養士連盟は2つの組織活動をもっています。1つは日本栄養士連盟茨城県支部の役割として栄養士・管理栄養士に関する政治的活動の実施、1つは自由民主党茨城県連合会会員(以下「自民茨連会」という)として職域栄養士会支部の役割を担っていますので自民茨連会友好団体として認められ県栄養士活動の応援を頂いています。

具体的には、事務局長の給料と新任研修会等の補助金年間約500万円は自民茨連会に要望書を提出しています。これを自民茨連会ががんばって県にお願いし予算化して下さっているのです。連盟会長が県

栄養士会監事を担っているのは、補助金活用の現状を把握する必要があるためです。

また、県議会傍聴や国会議事堂見学も自民茨連会にお願いして開催しています。これらは、当連盟は活動をしていますというところを知って頂くための手法です。

上記のように当連盟は県栄養士会活動をサポートしているのですがなかなか理解者が少ないのが現状です。連盟を邪魔扱いするのでなくサポートを感謝し、連盟事業に協力して下さる会員が増えることを希望します。(文責 高橋 征子)

東洋羽毛「睡眠セミナー」無料サービスのご案内 良質な睡眠は、健康で充実した毎日過ごす基本です!

◆こんなお悩みはありませんか? → ◆睡眠セミナーを無料で開催しています

- ・夜勤明け、体は疲労しているのになかなか眠れない。
- ・寝起きが苦手で起床時間ギリギリまで起きられない。
- ・睡眠時間は長いのに、眠りの質に満足できない。

東洋羽毛では「睡眠健康指導士」の資格を有した講師による充実したセミナーを開催し、職場の問題解決のお手伝いをさせていただきます。
※研修内容及び研修時間はご相談に応じさせていただきます。

TUK 東洋羽毛北関東販売株式会社 茨城営業所 ☎ 0120-461590
〒310-0842 茨城県水戸市けやき台2-19-2 www.toyoumo.co.jp セミナーに関するご相談はお気軽にご連絡ください!

賛助会員活躍一覧

◎商品展示	総会	26社
	給食施設調理従事者研修会	3社
	茨城栄養学術講習会	2社
◎新春懇談会	参加	21社
	商品協力	27社
◎広告バナー		7社
◎広告掲載	総会資料	3社
	法人設立30周年記念プログラム	4社
	栄養茨城(フラッシュ)	3社
◎広告チラシ		3社

栄養ケア活動支援整備事業 3年目の取り組み

概要

厚生労働省の補助事業として、平成26年度から28年度の3年間採択を受けて、関係機関・関係職種等と連携した栄養ケア事業の基盤づくりを進めてきたところです。

平成26年度は、栄養ケア担う潜在管理栄養士の発掘を行い、管理栄養士の新たなスキルの向上を図るための研修事業について、中期的目標を立てながらスタートさせました。さらに、関係機関及び関係団体等のご指導・ご協力をいただき、医療機関や地域包括支援センターのニーズ調査の実施及び管理栄養士未配置の診療所や地域包括支援センターと連携した栄養ケア事業に取り組みました。

平成27年度は、前年度のニーズ調査と実施事業の結果を踏まえ、実施しやすい栄養ケアのシステム構築を進めました。市町村等行政機関と連携し、地域の有用な資源を活用した地域高齢者の栄養ケア事業

にも取り組みました。

そして、平成28年度は、医療機関の協力のもと、在宅訪問による栄養ケアを医師等に同行するなどして行いました。また、新たに薬局との連携により、医師の指示による栄養指導を薬局内で実施するなど、患者様にとって喜ばれる栄養ケアの進め方を検討しました。

3年間の事業実施の中で、医療機関及び薬局との在宅栄養ケア活動や地域包括支援センターの介護支援専門員等と連携した栄養ケア活動の取組みは、確実に一歩踏み出しています。

今後、栄養ケアに取り組む「いばらき栄養支援管理栄養士」を増やしていくために、来年度以降もスキルアップ研修会を継続して実施していくとともに、栄養ケア・ステーションの取組みに対する認知度を高める必要があります。多職種との連携を深めながら更に、専門研究会の枠を外した栄養ケア活動のシステム整備が必要と考えます。

(文責 綿引 久子)

各ワーキンググループの事業実施状況

組織

栄養ケア活動を円滑に進めるためには、長期にわたって活動できる管理栄養士の人材が不足しております。組織ワーキングでは、市町村に広報紙への記事掲載をしていただくなどの人材確保のための活動を引き続き行いました。

また、栄養ケア活動に関わった管理栄養士や子育て世代の管理栄養士を対象に、フォーカスグループインタビューを実施しました。今後、栄養ケア・ステーションをさらに円滑に運営していくうえで、現在の活動や、子育て世代の管理栄養士が限られた時間の中で働ける労働体系を検討し提言して行く為の貴重な資料となりました。お忙しい中ご協力いただいた皆様ありがとうございました。



「いばらき栄養支援管理栄養士」として認定証登録された方々は78名となりましたが、まだまだ足りません。

皆様、お知り合いの方々にお声かけいただき、スキルアップ研修会に参加していただけますようお願いいたします。

(文責 住友 かほる)

研 修

研修ワーキングでは、栄養ケアにおける栄養・食習慣指導を的確に実践できる知識と技術の習得を目指し、スキルアップ研修会を6日間実施いたしました。3日間の講義は、東邦大学医学部准教授朝倉先生より科学的で実用的なアセスメント(BDHQ)法について学び、演習では、実際の場面を想定した熱心なグループワークが展開されコミュニケーションも深まり、その後のロールプレイングでは、質の高いアセスメント法の習得と技術の向上を図ることができました。6日間で41名が参加し、今後実際の栄養ケア事業を展開するうえでの人材確保につなげることができました。また、在宅療養者への栄養食事支援のための研修として「摂食嚥下困難な方への対応」「在宅訪問歯科診療の取り組みについて」「報告書の書き方のポイント」として3日間実施いたしました。さらに、今年度は栄養ケア実施にあたり効果的な栄養指導及び内容の標準化を図るためのマニュアルを作成いたしました。(文責 岡 純子)

連 携

今年度の連携ワーキングの主な事業は、薬剤師会と連携し、在宅療養者および在宅要介護者への栄養ケアにおいて口から食べる支援を進めることです。そのために介護食や嚥下食を取り扱う薬局を調査し、食情報提供のマップ作成を主に行いました。

調査は、県内全ての薬局に質問票を送り、回答していただく方法としました。質問票は、事前にいくつかの薬局をまわり、どんな商品が販売されているのか、取り扱う店舗の状況などを確認し、提供する情報の選定と質問項目を検討しました。回答は、県内1,021店舗の薬局のうち、約半数からいただきました。マップ作成では見やすく、わかりやすく表示するよう工夫しました。介護食や嚥下食等を取り扱う薬局は少なく、在宅での栄養ケアの現状と今後の食支援推進に向けての課題を感じました。

来年度から本格稼動する栄養ケア・ステーションの基盤作りのひとつになれるよう、事業を進めてまいります。(文責 山口 雅子)

事 業

事業ワーキングでは、今年度は、診療所及び地域包括支援センター、そして新たにセルフメディケーション支援薬局と連携した栄養ケア・モデル事業を計画、実施しました。診療所での栄養ケアは、今までは対象様が受診時に診療所内で食習慣指導を行っていましたが、今回は対象様宅を訪問し在宅で指導を行ないました。対象様から話を聞くだけでなく、実際に食事に関わる生活環境等を知ることが出来るため、地域包括支援センターとの連携の在宅高齢者の訪問指導と同様に、対象様をより理解し食習慣指導を進められたと思います。薬局での栄養ケアは、医療機関の外来受診で食習慣指導が必要と医師から指示を頂いた患者様に対し薬局内での指導と、薬剤師の居宅訪問指導に同行し在宅での訪問指導を行いました。食事アセスメントツールは、BDHQを使用し、3回の食習慣指導のあと再度BDHQを実施し、対象様の食行動変容の状況を確認、評価しました。(文責 大賀 智子)

総 務

総務ワーキングでは、栄養ケア事業の評価を行うため、4種類の質問票を作成し、調査を行いました。

質問票は、①薬局での栄養相談者、②栄養相談事業に協力いただいた薬局、③医療機関(クリニック)、④ケアマネジャーに対しての4種類で、それぞれ評価の視点を検討して質問内容を作成しました。

評価内容は、薬局での栄養相談者については、栄養相談方法のあり方、食事での疾病改善意識などについてです。協力薬局については、医師の指示書を受けて薬局で栄養相談を実施することの有益性等に焦点をあてました。医療機関(クリニック)については、在宅療養者への訪問栄養指導のあり方や、指導後の成果等について、ケアマネジャーについては、高齢の栄養指導対象者の把握や栄養改善への関わりの状況等について評価を行いました。

評価結果は栄養ケア事業の改善につなげ、事業の充実に役立ててまいります。

(文責 須能 恵子)

栄養ケア活動支援整備事業 モデル事業参加管理栄養士の声

私はモデル事業に参加し、3年目となります。クリニックの患者様は、管理栄養士と話す機会が無いせいか、高血圧や糖尿病脂質異常症等であっても、食への意識が低めであるように感じました。管理栄養士が介入することで、食への意識変化や行動変容が見られ、改善に向かう方もいらっしゃいました。

平成28年度は往診や訪問看護を受けている患者様宅へ、在宅訪問指導を行いました。在宅の方の場合は、要介護者の方もいらっしゃったり、疾病の他にも、低栄養や誤嚥、褥瘡予防など、課題の幅が広がっていると思います。

主治医の指示内容に添って正しく指導ができるよう、正しい知識やコミュニケーション能力など、今後も自己研鑽を重ね、機会があれば、また食習慣指導に参加したいと思っています。(福祉専門研究会 市川 庸子)

栄養ケア・モデル事業に参加させていただき、大変勉強になりました。まず、訪問をして感じたことは、栄養相談を受ける機会のない高齢者が多いということでした。対象者によっては、食環境・家族関係・経済面などの課題が複数あると、本人だけでは解決が難しい事例もありました。対象者と共に目標・取り組む内容を考え、少しずつ結果が表れると、本人も喜ばれ、とてもやりがいを感じました。

さらに、もっと良い提案ができたのではと、スキルアップの必要性も感じました。私は、数年前から福祉の中堅者研修会、県のスキルアップ研修会で学ばせていただいておりますが、食べ替えの提案の難しさを感じています。食材・食品・調理の知識も必要です。今後も適切な栄養ケアができるよう、勉強を重ねていきたいと思っています。

(福祉専門研究会 塚田 洋子)

今年度開始された薬局拠点の支援事業に参加し、外来及び在宅患者様に栄養指導を行いました。患者様にとって、信頼関係が築かれている薬局は生活の場です。そこで実施した指導では、院内より話しやすい雰囲気だからと食事や生活の不安を気軽に話され、在宅でもありのままの生活が拝見でき、改善目標が設定しやすく感じました。生活圏に栄養士がいて、客観的な食生活診断と食事療法支援ができれば、もっと頼っていただけるのではと思いました。疾患や合併症の有無等様々な病態の方への指導は、BDHQを活用できる技能の習得に加え、疾患を考慮した食生活診断と評価の知識を深め、さらに素早く円滑な地域連携で、主治医や他職種と患者様の情報を共有する必要性を痛感しました。そして、「生活密着型の栄養士」という目標を考える機会となりました。(医療専門研究会 栗原 恵子)

業務用食材の総合商社

URUNO
ウルノ商事株式会社

ウルノ商事株式会社	茨城県水戸市元吉田町1077-2
ウルノ商事(株)つくば支店	茨城県土浦市卸町2-9-6
ウルノ商事(株)北関東支店	茨城県筑西市伊讚美1937-1
ウルノ商事(株)東関東支店	千葉県富里市七栄532-239
ウルノ商事(株)埼玉支店	埼玉県加須市北平野770-1

Yakult



お申込み・お問合せは ☎0120-11-8960 (受付時間:9:00~17:30 土・日・祝日を除く)

水戸ヤクルト販売(株) / 水戸市谷津町1-35 〒311-4164 ☎029 (251) 8960
古河ヤクルト販売(株) / 古河市南町1-62 〒306-0015 ☎0280 (31) 8960
千葉県ヤクルト販売(株) / 習志野市茜浜2-5-2 〒275-0024 ☎047 (452) 8960
いわきヤクルト販売(株) / いわき市小名浜林城字向田2-1 〒971-8122 ☎0246 (58) 8960

平成28年度 主な研修会報告

第5回定時総会・研修会 5/31

茨城県県民文化センターにて総会（平成27年度事業報告、平成28年度事業計画(案)、(公社)日本栄養士会代議員選出等の議事）が開催されました。また、栄養ケアステーション事業の推進に向け「いばらき栄養支援管理栄養士認定証」の授与も行われました。

研修会は茨城県保健福祉部より茨城県食育推進計画（第3次）について講演頂きました。また、消費者庁食品表示企画課の清野富久江先生による「食品の機能性表示制度」についての特別講演があり、最新の情報を得ることができた1日でした。

給食施設調理従事者研修会 8/23、9/29

1日目は那珂市総合センターらぼーる・那珂市立瓜連給食センターにて64名の参加がありました。午前中はつくば国際大学教授の武敏子先生による献立作成のポイントについての講演があり、午後は2班に分かれ、デモンストレーション・試食と事例発表を交互に受講する形をとりました。

献立作成については基本的なことを再認識でき、今後の給食に役立てられるとの声が多く聞かれました。デモンストレーションはHATAKE・AOYAMA総料理長神保佳永先生にスチームコンベクションを使った肉・魚・野菜の料理紹介であったため、すぐに実践でき、使いこなす参考になったようでした。事例発表も減塩の大切さを栄養士・調理師が共有する良い機会となりました。

2日目は茨城県立健康プラザにて、県生活衛生課の會田雄治先生より災害時の対応について衛生面等を学びました。



茨城栄養学術講習会 11/23

茨城県看護協会大研修室にて98名の参加がありました。

「嚥下調整食学会分類2013の具体的な活用方法」ということで実際に基準を作られた広島県立広島大学教授の栢下淳先生の講演を聞くことができ、硬さだけでなく付着性、凝集性等を考慮することの重要性を認識でき、施設の嚥下食に活用できるとの声がありました。

続くパネルディスカッション「医療・福祉施設での嚥下対象者に対する取り組み」は、栢下先生のコーディネートのもと進めて頂き、さらに深みのある内容となりました。

<研修会参加者の声>

- ・それぞれの研修会で、実際の仕事に役立てられる、多職種との連携の重要性を感じた等の感想がありました。
- ・研修会テーマの希望
→摂食嚥下、食事介助、高齢者、病態栄養など

専門研修会 指導者のための健康・栄養セミナー 7/30

茨城県看護協会大研修室にて開催され、131名の参加がありました。

午前中は東京大学教授の佐々木敏先生から「日本食品標準成分表2015年版」についての講演がありました。午後のスポーツと栄養については、神奈川県立保健福祉大学教授の鈴木志保子先生、日本体育協会公認アスレティックトレーナーの大金ユリカ先生、シンクロナイズドスイミング日本代表チームの管理栄養士花谷遊雲子先生という最前線で活躍されている講師の方々の講演でした。スポーツに栄養士が関わり食からサポートすることの重要性や指導者への啓発の必要性等をお話頂きました。

新任栄養士研修会 8/4

茨城県立健康プラザにて36名の参加がありました。保健指導、栄養指導に役立つ「コーチング」について鱸伸子先生から順序立てた指導や対象者から話を引き出す大切さを学びました。政安会長からは茨城県栄養士会の事業内容の講演がありました。また、各専門研究会会員がアドバイザーとなり、グループワークを行いました。グループワークでは、職場に関すること、栄養アセスメント、地域と栄養士の関わり等のテーマでそれぞれのグループで意見を出し合いました。業務内容の異なる栄養士間での情報交換のよい機会ともなりました。



生涯教育研修会 9/24、10/8、11/12

茨城県保健衛生会館にて行われた計3回の研修会には毎回50～60名が参加がありました。

武庫川女子大学教授雨海照祥先生からは栄養ケアプロセスについて、実践的な演習をご指導頂きました。茨城県薬剤師会の番場和夫先生からは、薬の作用や食品との効果等、多くの情報を頂きました。また、筑波大学教授の増本幸二先生からは、小児栄養サポートチームの必要性や合併症についての講演を頂き、川崎医療福祉大学教授の小野章史先生からは栄養士が知っておくべき消化や吸収について改めて学ぶ機会を頂きました。

来年度も スキルアップ・交流の場として研修会にぜひご参加ください!

(文責 菊池 嘉代子)

会員増対策

～ 仲間を増やしましょう ～

会員の皆様には、日頃より会の活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

本年度会員増対策として実施致しました新会員への「研修会無料受講券」付与の特典については、大きな効果を出すまでには至りませんでした。しかし、研修会を受講した新会員の方には、学ぶことの重要性を知る機会となったようです。来年度の実施については検討の結果、新会員勧誘のアピールポイントとなるため継続することに致しました。

また、来年度は新たな取り組みとして、入会勧誘強化月間の設定や茨城県栄養士会入会案内のリニューアルをすべく準備中です。是非、会員の皆様にも積極

的に会員増に向けた取組みにご協力下さいます様お願い致します。

全会員の方をお願いしています栄養士会館運営拠出金（4万円/人）ですが、完納されていない方がおられます。拠出金も会費と同じように会の運営には欠かせない資金です。拠出金納入へのご理解を宜しくお願いします。また、各専門研究会においても完納されていない方へのフォローを引き続きお願いします。

今後、栄養ケア・ステーション事業の活動を充実発展させていくためにも、管理栄養士・栄養士の仲間をたくさん作りましょう。（文責 山口 雅子）

役員改選について

平成29年度は、役員改選の年となり、下記の日程で進める予定であります。

- | | |
|------------|-----------------------|
| ・選挙管理委員任命 | 1月18日(水) |
| ・公示 | 3月21日(火) |
| ・立候補者締切 | 4月3日(月) |
| ・投票 | 5月11日(木)～
5月17日(水) |
| ・総会での選任 | 5月25日(木) |
| ・理事会での三役選任 | 5月25日(木) |

会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。
(文責 高津戸 みち子)

編集後記

今年度を振り返り、皆様は何を思い返されますか？未曾有の地震・台風・豪雨…予期せぬ自然災害が数多く生じ、「災害大国日本」をより実感する中、食の専門家として出来ることを改めて考えさせられる年でした。また、先般のリオ五輪では、過去最多のメダルを獲得し、日本国民が歓喜しましたが、これを陰で支えたのは「食事・栄養」であることは自明です。そういった場面で、「栄養士・管理栄養士」が注目される一方、急激な

熊本地震義援金報告

熊本地震は平成28年4月14日21時26分を最初に、震度7が2回、震度6強が2回等、何回も大きな揺れがあり、被害の大きさも甚大かつ広域でした。

そこで、茨城県栄養士会では会員の皆様に義援金のお願いをしましたところ、個人131人、1団体と多くの方々から温かいご賛同が得られ、総額306,000円の義援金が集まりました。

これを平成28年7月6日に公益社団法人熊本県栄養士会へお見舞いとして、お送りしましたところ、平成28年10月に熊本県栄養士会よりお礼状が届きました。以上、報告いたします。

皆様のお志に感謝申し上げます。

(文責 江原 みゆき)

高齢化による「地域包括ケア」といった高度な活動へも、我々が率先して取り組まねばなりません。

今号は、記念特集号（法人設立30周年記念）として、質・量ともに重厚なものとなりました。偏に、諸先輩の御指導・御協力の賜物であると感謝しております。さらに次世代を担う我々として、一層の知識の習得、社会への啓発といった、栄養士・管理栄養士に課せられた職責を全うし、社会への知識の還元や伝達を行うことが最も重要であると再認識するに至りました。
(文責 山本 愛)

